

ふるさと 上越高田市

北海道十勝郡知内町

中村恭子（西城町出身）

墓は東南東に向って立っている。

祖父が昭和十年十月に建てたものだ。

墓石には年月日と、中村利登之建とのみ刻まれて有る他、物故者の名はない。



金谷山のお墓

何時の頃であつたらう。新潟の高田に「盃」を刻んだ祖先の墓がある、と聞いたのは……。

祖父が、この世を旅立ったのは昭和十七年一月三十一日、ぼたん雪が激しく音もなく降っていたのを覚えている。父に抱きかかえられ、西方に向い念仏を称え乍らの往生であつた。往年八十八歳、私が七歳の時であつた。私への遺言は「恭子、風邪ひくなよ」であつた。

中村の家を継ぐ事になり、諸事に気を取られていた私も、五十歳も半ばを越えた頃、祖先の源（ルーツ）が、気になり出した。町役場へ出掛けて、祖父の戸籍を調べ始めた。

高田市は上越市になつて居た。後日私は高田へと旅立った。

親戚加藤家の墓が寺町高安寺に在るとの情報から、JR日本海4号に乗り翌朝



神社にて

直江津に着いた。直江津から乗り換えて二つ目の駅高田に着き、尋ね尋ねて高安寺を訪れた。時は確か平成に入った八月の七日であつた。過去帳を調べて頂いたが加藤家のは在つても中村家のは無いとの事。私の家の宗旨が浄土真宗である事から、これは尤もな事と思ひ、辞して今度は上越市役所を訪れた。が、此処でも明治三年以前の記録は無いとの事。結局お寺の過去帳に祖先の足跡を辿るしか方法は無い。但し、私の家の菩提寺が分らない。浄土真宗のお寺を調べてもらひ、浄興寺さんに何うが此処にも祖先の名はなかつた。

とつかうして第一回の上越高田への旅は終わる。その後、高安寺様の紹介で、旧榊原藩和親会の存在を知る事になり、榊原社や金谷山の墓地を知る事になる。この間、和親会の関谷清治様のご尽力は忘れられない。

